

古文の特徴をつかむ

〔確認〕

やってみよう

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

古文

うつくしきもの。瓜にかきたるちこの顔。すずめの子の、ねず鳴きするにをどり来る。二つ三つばかりなるちこの、急ぎてはひ来るみちに、いと小さき塵のありけるを目ざとに見つけて、いとをかしげなる指にとらへて、大人などに見せたる、いとつくくし。かしらは尼削ぎなるちこの、目に髪のおほへるをかきはやらで、うちかたぶきてものなど見たるも、うつくし。

大きにはあらぬ殿上童の、装束きたてられてありくもうつくし。をかしげなるちこの、あからさまに抱きて遊ばしうつくしむほどに、かいつきて寝たる、いとらつたし。

『枕草子』より

現代語訳

(A)もの。瓜にかいた幼児の顔。すずめの子が、ねずみの鳴き声をまねてチュウチュウと鳴いてみせると、おどるようにやって来る。二、三歳くらい幼児が、急いで歩いて来る途中で、(B)小さい塵があったのを目ざとく見つけて、とてもかわいらしい指でつまんで、大人などに見せている様子は、まことに(A)。髪を尼削ぎにした幼児が、目に髪がおおいかぶさっているのを手で払いのけようともしないで、かしげて何かを見ているもの(A)。

大きくはない殿上童が、りっぱに着物を着せられて歩いているのも(A)。愛らしい幼児が、ほんのちよつと抱いて遊ばせたりあやしたりしているうちに、抱きついて寝入ってしまうのも、とても(A)。

*注

・尼削ぎ＝肩のあたりで切りそろえた髪。

・殿上童＝摂政・関白などの上流貴族の子が、宮中の作法を見習うために、元服前に帝

のいる御殿で仕えた者。

(1) 線 を現代仮名遣いに直しなさい。

Blank boxes for question 1.

(2) (A) に入る現代語訳を書きなさい。

Blank boxes for question 2.

(3) 線 の主語を次のア～ウの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 小さき塵
イ 二つ三つばかりなるちこの殿上童
ウ 殿上童

Blank box for question 3.

(4) 右の古文中には、「うつくしきもの」がいくつ挙げられていますか。漢数字で答えなさい。

Blank box for question 4.

(5) この『枕草子』の作者はだれですか。漢字で書きなさい。

Blank box for question 5.